

特徴

プログラムで
目指すこと

1. エグゼクティブの視座で経営を担える人材を育成する
2. 経営の上席として新しい潮流を総合的に学ぶ
3. トップリーダーとしてのリーダーシップジャーニーの第一歩を踏み出せる

プログラムの
特徴

1. 京都大学の現役教授陣、優れたビジネス・アカデミア、第一級実務経験者や企業役員クラスとのネットワークの構築
2. 京都大学の教員や学生との産学交流機会の提供
3. 通いやすい東京での開催、普段なかなか経験できないコンテンツが体験できる京都での開催、オンラインでの開催を組み合わせた形式

募集要項

EBP2024[第5期]

KYOTO UNIVERSITY EXECUTIVE BUSINESS PROGRAM

開講日程	2024年6月～2025年2月(9カ月) 基本は隔週金曜日2時間程度の講義とディスカッション(夕方の時間帯が中心) 月1回程度土曜日に開催 合計25日間程度 ※その他適宜懇親会を実施 ※京都実施の回は上記とは異なる時間帯
場所	オンラインまたは以下会場でのオンライン、オフラインミックスでの実施 ※東京丸の内(京都アカデミアフォーラムin丸の内、京都大学東京フィス)、または、京都大学吉田キャンパスまたは近辺
定員	限定15～20名(先着順)
対象	将来、トップマネジメント、全社経営を担うことが期待されている幹部候補者 ※取締役、執行役員クラス及びそれに準ずる経営層の方々 ※会社派遣ではなく、個人申込みの場合は別途お問い合わせください。
受講料	受講料250万円(税込) ※合計日数、および実施形態に伴って変更となる可能性があります。 ※交通費や宿泊費は含まれません。
問い合わせ先	京大オリジナル株式会社ソリューションデザイン部(担当:川村・藪内) TEL:075-753-7778 / Mail:kensyu@kyodai-original.co.jp
詳細・お申込	https://www.kyodai-original.co.jp/kuebp2024/

■キャンセルについて

- ご都合により申し込み後にキャンセルされる場合は、以下キャンセル料が発生します。
(1)開講日の21日前から8日前 → 受講料の50%
(2)開講日の7日前から → 受講料の100%
- 最低履行人数に満たない場合、開催を中止する場合があります。その場合、上記に関わらず全額返金いたします。
- 病気・出張その他の受講者の都合により欠席した場合の返金や授業の振替は行いません。

■写真等の取り扱い

セミナーの様子は、写真・ビデオ撮影を行わせていただきます。また、撮影した写真・動画は、京大オリジナル(株)の広報手段、講演資料、マスメディア提供資料、書籍などに用いる場合があります。個人が特定されないよう加工することをご希望の方は、期間中にお申し出ください。

KYOTO UNIVERSITY
EXECUTIVE
BUSINESS PROGRAM

EBP事務局 京都大学経営管理大学院/京大オリジナル株式会社

〒606-8317 京都府京都市左京区吉田本町 京都大学 国際科学イノベーション棟東館 4F
Tel. 075-753-7778 (京大オリジナル株式会社)

FEATURES

SUMMARY

KYOTO UNIVERSITY EXECUTIVE BUSINESS PROGRAM

京都大学エグゼクティブ・ビジネスプログラム 2024 第5期



CONCEPT

マネージャーから真のビジネスリーダーへ

Knowing

これからの企業経営に
必要な知識を深める

日本のMBAで唯一アイビーリーグのMBA(コーネル大学ビジネススクール)とDual Degree Programをもつ京都大学MBA。そのグローバルスタンダードから厳選したプログラムにより、ビジネスリーダーに不可欠な知識を深める。

Doing

現在より1つ上の経営者目線から
企業経営を分析し方向性を定める

リーダーとして社長就任後、数年後に退任する際の社長退任演説というシチュエーションを想定し、経営の全体像を作りプレゼンテーションを行う。少人数グループでの議論を通じて、現在の中期経営計画と社会トレンドから将来の経営方針を定めると同時にプレゼンテーション能力を磨く。

Being

自己を磨き、リーダーとしての
自分を見つめ直す

京都での日本文化体験(禅体験、生け花体験)や京都大学が保有する歴史的建造物の見学、最多の日本人ノーベル学者を育成してきた京都大学の研究者による先端基礎科学の講話等を通じて、自己研鑽を行い、リーダーとしての自分を見つめ直す。

ご挨拶

実務者から経営者へ。その壁を乗り越えることは容易ではありません。
マネージャーとして定められた役割を果たすことに留まらず、リーダーとして未踏の道へ組織を導いていける視座を持てるか。担当業務の視点を超えて、全社とステークホルダー全体を見渡す視野を持てるか。
優秀な実務者が経営者・リーダーとして育ちきらず、企業の持つ潜在力を生かしきれない例は枚挙にいとまがありません。
この高い壁を乗り越え、一人でも多くの強靱な経営者・リーダーが生まれるようサポートしたい。そして様々な業種・規模の日本企業がより強く、より速く、そしてより長く価値を生みだすことに貢献したい。その思いで、当プログラムは誕生しました。
経営の必須知識を、新しい環境に即した内容と不変の

定石部分の両面から再学習するKnowingパート。
知識を獲得するだけでなく、自分ごととし「使える」知識にするためのDoingパート。
そして、経営学の枠を超えて、大変動の時代に生きるリーダーとしての「軸」作りとなるBeingパート。
この3つを組み合わせることによってはじめて、本質的なビジネス・リーダー育成が可能となります。また、講師として参加する優れたビジネス・アカデミア、第一級の実務経験者、そしてビジネスを超えた広範な領域のリーダーの皆様。そして経営者予備軍として選抜された受講者の皆さん。この多様な参加者との交流とネットワークが、受講期間を終えた後も大きな価値をもたらすことも言うまでもありません。
強靱な経営者を目指し、人として強い軸を持つリーダーたらしとする皆さんの参加をお待ちしております。

京都大学経営管理大学院は2006年に開校した新しいMBAです。開校から十数年ですが、当初60名だった学生定員が100名に増員され、博士課程の設置や様々な新プログラムの立上げなどにより、持続的な成長ができています。
本プログラムの講義(Knowing)は、京大MBAが継続してきた基礎科目(コア科目)と新しく提供している実務科目(フロンティア科目)が中心となっています。コア科目は、価値マネジメント、マーケティング、ファイナンス、経営戦略、サービスマネジメント、経営管理など、伝統的な経営学といえます。実務フロンティア科目は、パーパス経営、

ESG、デジタル化、ダイバーシティ、デザインシンキングなどの新しい潮流です。
変わらないものを正しく理解し、変わりつつあるものに柔軟な対応をする。いまの事業と利益をマネージしながら、次世代のビジネスとバリューに思いを巡らせる。そのための講義を提供します。DoingやBeingとのシナジー効果もあります。
また、経営的な視点から、Knowing、Doing、Beingのシナジー効果を見出し言語化することにも意義があります。よろしくお願ひします。

講師陣

充実の講師陣は京都大学の現役教員、優れたビジネス・アカデミア、第一級の実務経験者

御立 尚資	京都大学経営管理大学院 特別教授
砂川 伸幸	京都大学経営管理大学院 教授
若林 直樹	京都大学経営管理大学院 教授
関口 倫紀	京都大学経営管理大学院 教授
山田 仁一郎	京都大学経営管理大学院 教授
中島 幸男	京都大学経営管理大学院 特命教授
岡田 紀子	京都大学経営管理大学院 客員教授 シスメックス株式会社 内部統制室長(本部長)
佐藤 克宏	京都大学経営管理大学院非常勤講師 マッキンゼー・アンド・カンパニー パートナー
林 晃司	株式会社アシックス 執行役員 経理財務統括部長(経営企画担当)
野口 真人	京都大学経営管理大学院 特命教授 株式会社ブルータス・コンサルティング 代表取締役社長
山田 昌史	京都大学経営管理大学院 客員教授 株式会社ブルータス・コンサルティング 常務取締役
鵜澤 慎一郎	EYアジアパシフィック ピープル・アドバイザー・サービス 日本地域代表パートナー

増田 典生	京都大学経営管理大学院特命教授 株式会社日立製作所サステナビリティ推進本部主管 一般社団法人ESG情報開示研究会共同代表理事
落合 文四郎	京都大学経営管理大学院特命教授 アルー株式会社 代表取締役社長
鍋嶋 美佳	東京海上ホールディングス株式会社 執行役員 グループダイバーシティ&インクルージョン総括
鈴木 智子	一橋大学経営管理研究科国際企業戦略専攻 教授
松山 大耕	妙心寺退蔵院 副住職
山内 裕	京都大学経営管理大学院 教授 Representative-at-large, Academy of Management, Organization and Management Theory Division
菊地 唯夫	京都大学経営管理大学院 特別教授 ロイヤルホールディングス株式会社 代表取締役会長
椛山 泰生	京都大学名誉教授 学校法人椛山女学園理事長 椛山女学園大学現代マネジメント学部教授
山本 康正	京都大学経営管理大学院 客員教授
池坊 専好	京都大学経営管理大学院 特命教授 華道家元 池坊 次期家元
鹿島 久嗣	京都大学大学院 情報学研究科知能情報学専攻 教授

※記載は2023年度登壇の講師です。2024年度は変更になる可能性があります。
※講師の所属は2023年3月時点の記載になります。

(講義の日程順で掲載)

GREETING



共同プログラム長
御立 尚資 Takashi Mitachi
京都大学経営管理大学院 特別教授



共同プログラム長
砂川 伸幸 Nobuyuki Isagawa
京都大学経営管理大学院教授

カリキュラム (予定)

基本概説とアドバンスクラスを盛り込み、本質的なビジネス・リーダーを育成するカリキュラム

事業戦略	世界の動向の変化、価値の変遷を改めて整理し、リーダーがなすべきことは何か? いかに変化を見極めるか? を考える。また、戦略論を基礎から整理し直すとともに、事業ポートフォリオマネジメント、DX経営等のトピックスとビジネスモデル戦略に対する理解を深める。 アドバンス：コーポレート戦略、DX、事業ポートフォリオマネジメント
財務と企業価値 サステナビリティ	価値創造と企業価値評価をどうつなげていくか、ファイナンス関連の知識と実践を学ぶ。経営目標としての企業価値の向上、M&A、コーポレートガバナンス、サステナビリティ、ESGとファイナンスの関係、パーパス経営についても取り上げる。 アドバンス：バリュエーション、M&A、サステナビリティ、コーポレートガバナンス、ESGと統合報告、パーパス経営
人的資源マネジメントと組織論	組織における人間行動、組織構造のデザイン、意思決定とコミュニケーション等、概論を改めて整理し、人的資源マネジメントと組織論研究の最前線、リーダーシップと組織、人的資源管理と組織マネジメント実践、エグゼクティブリーダーシップについて理解を深める。 アドバンス：ダイバーシティ経営、エグゼクティブリーダーシップ
マーケティング	マーケティングの基礎である、顧客の問題を解決し、顧客の尊厳を満たすこと、顧客への思いやり(ホスピタリティ)を再考する。また、統合的視点でのサービス価値創出に関するマーケティングやその他注目度の高いトピックについても理解を深める。 アドバンス：デザインシンキング、アートシンキング、サービスマネジメント
イノベーション	イノベーション、アントレプレナーシップについて、これからの企業経営に必要な知識としての経営学の潮流を学ぶ。また、AIなど最先端の科学技術とビジネスについても理解を深める。 アドバンス：新規事業と投資ビークル、アントレプレナーシップ、テクノロジーとビジネス、AI
Being領域	日本文化体験、歴史的建造物見学、先端基礎科学やリベラルアーツ関連の講話を通して、自己を磨き、リーダーとしての自分を見つめ直す。 アドバンス：京都での禅、生け花体験、歴史的建造物見学、先端基礎科学やリベラルアーツ関連の講話、社長退任演説とリーダーシップジャーニープラン作成

※上記に加えて、京都大学総長の講話、Beingにつながる人文科学や自然科学に関する講座、京都大学教員、学生との産学交流の機会も予定

プログラムコーディネーター	過去受講企業一覧	
 若林 直樹 京都大学 経営管理大学院教授  関口 倫紀 京都大学 経営管理大学院教授  山田 仁一郎 京都大学 経営管理大学院教授	2022年度 第3期 受講者13名 (株)アイネット/タカノ(株)/(株)T&Dホールディングス/DMG森精機(株) 東京海上日動火災保険(株)/ファイントゥデイ(株)バイオマトリックス研究所 (株)マネーフォワード/三井住友信託銀行/(株)山本電機製作所 ヤンマーエネルギーシステム(株)/(株)UACJ/(株)ロッテ	
2020年度 第1期 受講者4名	2021年度 第2期 受講者11名	2023年度 第4期 受講者13名
※企業名は開示許可を頂いた企業様を五十音順で記載しております。 ※詳しくはWEBサイトをご覧ください。		
過去受講者の職種	参加者の声	
営業責任者、財務経理責任者、人事管理責任者、CFOの方など、規模・業種問わず、取締役、執行役員、部長クラス、創業経営者など、多様なトップマネジメント、エグゼクティブの方が受講。	WEBサイトにて「過去受講生の声」をご覧ください。	

Knowing/Doing/Beingの統合としての成果	
1. 社長退任演説を作る：何をレガシーとして残し得たか、どう進めたか、何を積み残したか	2. リーダーシップ・ジャーニー・プラン (リーダーとして成長するための自己育成計画)を作る
■ ビジョンとその具現化策を「言葉」にする <ul style="list-style-type: none"> ● 自社の課題を高い視座で洗い出し、自分が手をつけるものを選ぶ ● 課題を解決し、どこへ辿り着くかを明示する ● 辿り着くまでの道のりはどのようなものか、何をどのように実行して辿り着くのか、を考え抜く ● 次世代の人たちの心を打ち、次の行動を促す「コミュニケーション」としてまとめる ● 前任者・後任者との「駆伝」の中で、自分の役割を位置づける 	■ Knowing領域で、鍛えていくべき分野とその具体策 (ビジネスの内・外両面) <ul style="list-style-type: none"> ■ Doing領域で、何を実行していくか。フィードバックをどう得て、どう活用するか ■ Beingとして、自分らしいリーダーシップスタイルをどう作っていくか

Knowing/Doing/Being